

帯広開発建設部

Web 広報誌

第14号

平成28年7月20日発行



新たな北海道総合開発計画が策定されました



北海道総合開発計画は、北海道開発法に基づき、北海道の資源・特性を活かして我が国が直面する課題の解決に貢献するとともに、地域の活力ある発展を図るため、国が策定する計画です。

平成28年3月に8期目となる北海道総合開発計画が閣議決定されました。

この計画では、北海道の強みである「食」と「観光」を戦略的産業として育成し、豊富な地域資源

とそれに裏打ちされたブランド力など、北海道が持つポテンシャルを最大限に活用することにより、2050年の長期を見据え、「世界の北海道」を目指します。計画期間においては、「生産空間」を支えるための重層的な機能分担と交通ネットワーク強化、農林水産業の競争力・付加価値の向上及び世界水準の魅力ある観光地域づくり、地域づくり人材の発掘・育成を重点的な取組としています。

帯広開発建設部においても総合開発計画に基づいて施策を遂行していきます。

平成28年熊本地震にTEC—FORCEを派遣しました



4月14日に熊本県を震源とする地震が発生しました。

帯広開発建設部ではTEC—FORCEが砂防班を皮切りに、河川班・道路班の計3班を被災地の支援に派遣しました。

6月1日にはTEC—FORCE報告会が行われ、派遣された隊員から被災地での活動状況の報告のほか、今後の支援活動への提言がなされました。

災害対策用機械 in 池田町!

6月26日および27日に池田町で、帯広開発建設部が所有する災害対策用機械が集結し、イベント・訓練に活躍しました。

MEMO

北海道開発局では、地震や噴火など各種災害に備え、災害対策用機械を開発・保有しています。災害発生時、あるいは発生が予測される際には速やかに出動し、被害を最小限に抑えるように体制を整えています。

6/26(日) こども祭り in いけだ



6月26日(日)に池田町において「こども祭り in いけだ」が開催されました。こども祭りでは、グルメコーナーや職業体験、段ボール迷路など様々な催しが行われました。

その中の1つ、「働く車スタンプラリー」に、帯広開発建設部から対策本部車を展示しました。来場者は紹介パネルを見る、車の内部に入るなどして、対策本部車について学んでいました。

子どもたちは、展示されていた働く車に目を輝かせていました。



これが対策本部車だ!

全長：8.2m
全幅：2.4m(拡幅時 5.2m)
全高：3.8m
重量：9.5 t

災害が起きた際に、現地対策本部として応急対策の指揮、情報収集・連絡等を行う機能を有した災害用対策機械。車輛後部を拡幅させ、必要なスペースを確保することが可能。また、搭載された情報通信機器により場所を問わず情報収集・連絡が可能。

6 / 2 7 (月) 災害対策用機械操作訓練 in 池田町

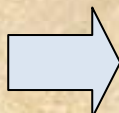


こども祭りが行われた翌6月27日(月)には災害対策用機械操作訓練が行われ、再び帯広開発建設部が保有する車輛が多数池田町に集結しました。

この訓練は当部職員をはじめ、建設関連業者や十勝管内の自治体職員、報道関係者が集まり行われました。

訓練会場では、各種災害対策用機械が配備され、実際に機械を用いたデモンストレーションが行われました。特に注目を集めたのは、排水ポンプ車による排水作業と、土のう造成機による造成作業でした。

排水ポンプ車



排水作業の様子



参加者は、真剣な面持ちで訓練に参加していました。

職員はこのような訓練を通じて、災害が起きた場合、最善の対策を効率的に行えるようにスキルアップを図っています。



十勝川の水辺が

「都市・地域再生等利用区域」に指定

～水辺空間を活かした賑わいの創出や魅力あるまちづくりを支援～

北海道開発局は、水辺空間を活かした賑わいの創出や魅力あるまちづくりを支援するため、4月19日付けで十勝川中流域を「都市・地域再生等利用区域」に指定しました。

4月27日には音更町役場で手交式が行われ、藤田帯広河川事務所長から高木副町長に指定書が交付されました。



都市・地域再生等利用区域の指定によって、これまで公共性・公益性を有する者などに限定されていた河川の占用が民間事業者などにも許可され、オープンカフェや自然体験といったアクティビティなどの営業活動が可能になります。このことにより、交流人口の増加や消費の拡大が見込まれ、地域の活性化が期待されます。

指定区域は、十勝川温泉地域や十勝エコロジーパークが隣接しており、下流側には北海道土木遺産である千代田堰堤があります。温泉街には新たにマルシェやチーズの加工体験工房などが楽しめる複合的な温泉観光施設が今年12月にオープン予定など、注目のエリアです。

帯広開発建設部では、指定区域に隣接する資源が連携することにより、水辺を活かしたまちづくりが進むように支援していきます。

